

**礎は動くか、揺るぐか？**

●平成23年度・春日部地区浦高会総会

昨4日(日)の午後4時30分から、だん家春日部店3階で春日部地区浦高会の平成23年度総会が開かれました。創立以来今回が11回目の総会、32人の会員が出席し、平成22年度事業報告など5つの議案すべてに承認をいただくことができました。

今回は、総会と懇親会の進行役を36期(昭和59年卒業)の由木 智さんに務めていただきました。最初に三輪 昭彦会長(15期、写真①)からご挨拶です。

「皆さん、こんにちは。3月11日に東日本大震災が起り、日本全体が大きな混乱の中でもうすぐ半年が過ぎようとしております。国政では野田内閣が誕生しましたが、現状の混乱を一日も早く沈静化していただき、将来に夢の持てる時代を切り拓いていただきたいと思います。さて、これから11回目の総会を開催させていただきますが、昨年度は創立10周年記念の“春日部麗しの杜づくり”事業をスタートさせていただきました。この事業も10月に植樹祭、今年1月には野鳥観察会、7月に樹名板の取り付けと順調に推移しております。これも幹事さん達のお陰と感謝いたします。本日も、そうした事業報告のほか、今年度もさまざまな事業が予定されておりますので、皆様の慎重審議の上で、ご承認賜ればと存じます。」



そして議事に入りました。昨年9月5日の総会、10月31日の春日部麗しの杜づくり植樹祭、11月6日の第16回ゴルフコンペ(大平台カントリークラブ)、11月14日の浦高百年の森づくり間伐など14の事業報告がありました。収支報告では、昨年度は埼玉県のみどりの埼玉づくり県民提案事業補助金55万円などの収入を得て166万9,866円の歳入と同額の歳出が提案されました。また“春日部麗しの杜づくり事業積立金”が設けられ、30万円が積み立てられ、毎年3万円ずつの補植を行っていくことが報告されました。監査意見では、鈴木剛監事(28期)から会計が適正であることが報告されました。

続いて、23年度の事業計画案では、この日の総会、2月の賀詞交換会のほか、2回のゴルフコンペ、3回ずつの春日部麗しの杜づくり事業、浦高百年の森づくり事業への参加、本部同窓会との関係では、地域職域同窓会責任者会議や本部同窓会総会への出席などが提案されました。予算案では70万円の収入と支出、さらに27万円の積立金の使途が提案されました。特に今回の会費から1千円分を東日本大震災の義援金として供出することも提案されました。

役員改選も含め5つの議案すべてが承認されました。

【写真②:会計報告の牛久保さん(右)と議長の三輪会長】



総会に続いて会員スピーチです。今回は13期の石塚 勝巳さんから「アジア教育友好協会(AEFA)」の活動について報告をいただきました。

「本日は、皆さんに私が所属しているアジア教育友好協会の活動についてお話をさせていただきます。」



アジア教育友好協会(AEFA)は、学校建設事業と国際交流事業の2つの事業を推進しています。学校建設事業では、ベトナムなどのインドシナ半島の少数民族のために、年間1億円程度の予



算で、学校は1校あたり300~500万円ですので年間20校程度の学校を作っています。また、学校建設だけでなく、村

の人々による学校運営委員会を作ってもらい自分たちで学校を運営してもらい、自分たちで成長させるような支援も行っています。学校を作るまでは日本からの支援金で行い、その後は地域住民の支援プロジェクトも作り、家畜の飼育や野菜の栽培などでお金を稼ぎ、消耗品をそろえたり、修繕ができるようになるための仕組みを作り上げます。



私たちの活動は学校建設だけではなく、国際交流の目的もあり、日本の子ども達と交流することを行っています。一つの事例としては、日本の子ども達が書いた手紙を英語に翻訳し、さらにそれを現地の言葉に翻訳する NGO が仲立ちしたり、現地で織った布を日本に持ってきて売って資金にしたりとさまざまな活動を通じて、現地と日本の国際交流を推進しています。

私がこうした活動に参加するきっかけは、日本財団との関わりだったのですが、ラオスのことを勉強してみると、人口は約600万人、そのうち400万人がマオ族で、それ以外に山岳民族を中心として50の部族が暮らしているのです。学校に行かないとラオスの共通語が学べない、同じ国内で言葉が通じないという状況にあるのです。電気もなく、濁った水を飲み、貧しい暮らしをしている人たちが多く、学校に行きたいという気持ちは多くの人が抱いているのです。村に学校を作るとすると100人くらいの子供達や青年が集まってくるのです。

日本から行った教員が、貧しい子ども達でも目が輝いているというのです。



そんなことを日本の子ども達に伝えていくことも必要だと思っています。学校建設の状況などを紹介するDVDを用意いたしましたので見ていただきたいと思っています。」【写真③】

④⑤は日本財団 HP より、写真⑥⑦は講演者の石塚さん】

\*

### 【学校建設の流れ】 1. 現地からの依頼



パートナーである各国現地 NGO からの建設依頼を受け、AEFA スタッフが実際に現地へ赴き、実態調査を行います。

### 2. 建設地の決定

村民集会等を通して確認された地域住民の教育への熱意、理解、期待される村民の協力などを前提に、建設地が決定されます。



### 3. 学校運営委員会の設置



現地 NGO パートナーは、建設地の学校運営委員会を設置します。村長・校長(担当教師)・保護者代表・村の青年代表・NGO スタッフが委員会の中

心になり計画を立てます。

### 4. 着工式

地元政府の許可が下り、建設会社あるいは大工の棟梁が決まり、諸条件が整った時点で、着工式です。



### 5: 建設

学校運営委員会の立てた計画に従い、村民の協力を得て、建設が始まります。通常、3~5 教室・トイレ・教員室などが作られます。

### 6. 学校の完成

学校は村の中心になり、集会所を兼ねる場合もあります。必要に応じて幼稚園や、遠くから通う子どものための寮を併設したり、井戸を掘ったり、その地域のニーズに合わせた学校が完成します。



### 7. 開校式

時には日本から支援者の方も参加して、盛大に開校式が行われます。子どもたちの瞳が輝きます。

### 8. 自立支援プロジェクトの立ち上げ



学校の運営・維持に必要な費用を賄うため、豚や鶏、牛の飼育、学校菜園など、地域住民の自立支援プロジェクトを立ち上げます。

### 9. 交流開始

新しい学校ができ、交流スペースも作られ、日本の学校との交流が始まります。

### 10. 定期的視察

活動を通じて、学校の運営状況も確認し、学校に問題があれば、一緒に考えていきます。【日本財団HPより】

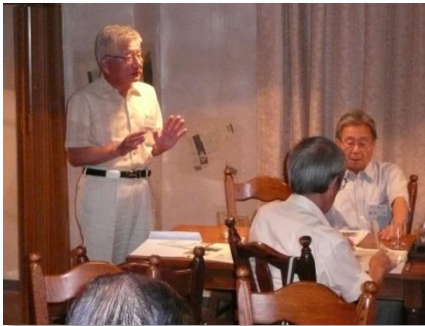




本来であればDVDで皆さんに見ていただくことができたのでしょうか…。ノートパソコンしか用意できず、全員に概要をみていただくことができませんでした。石塚さんご免なさい！ m(\_ \_)m

ここで質問タイム。今成 英明さん(14期)から。Q.「どこの学校にどうお金を使うのかを決めるのは誰ですか？」

A.「AEFAがラオスなどの国の教育局と話し合いをもって決めています。」



Q.「AEFA全体では、どの程度のお金が動いているのですか？」  
A.「日本財団が持っている資金は200億円程度でしょうか？ それを100人程度のスタッフで動かしているの

ので、細かいところまでの目配りはできないのではないかと思います。」

\*

### ●ご来賓からのご祝辞を

約35分の会員スピーチが終わり、ここで浦和高等学校同窓会の川野 幸夫会長(13期)からご祝辞を頂戴しました。

「今日は、春日部地区浦高会の総会にお招きいただき、途中、石塚様の会員スピーチからの参加となりましたが、総会が無事に終了されたとのことお喜び申し上げます。

9月の第一日曜日は、西部浦高会とも重なり、西部は私の所属している地域同窓会のため、そちらに先に出席してから、こちらに来るため遅れてしまい申し訳ございません。さて、先ほどは世界の子も達に学校を作るというお話でしたが、世界ではヨーロッパでギリシャを発端としてソブリンリスクが囁かれ、アメリカ国債でもと言われておりますが、私は現在の日本の方がソブリンリスクが大きいのではないかと心配しております。ぜひ野田首相にはがんばっていただきたいと思

います。さて、今回の震災では“想定外”という言葉がよく聞かれましたが、日本では人口減少以外のことはすべて想定外のことではないでしょうか。世の中はそれほど大きく変わっているのです。

こんな時に大切なことは、国においても企業においてもリーダーシップのしっかりととれるリーダーの存在だと思



毎年のように総理が替わるというのは、この国にリーダーがいなくということであると思

います。そんな中で、我が浦高は何とかリーダーたる人材を育成し学校でありたいと、関根校長が心強い言葉を述べていらっしゃいます。同窓会としても全面的に応援していきたいと思

います。特に、春日部地区浦高会の活動は、非常に高い評価を受けており、大きく発展していただきたいと思



っております。結びになりましたが、春日部地区浦高会のますますのご発展と、皆様方のご健勝をお祈りいたしましてお祝いの言葉とさせていただきます。本日は、おめでとうございます。」

ここで、“浦高百年の森づくり事業”に対してささやかですが、寄付をさせていただきました。【写真⑩:川野同窓会会長(右)へ寄付金を渡す三輪春日部地区浦高会会長】

\*

### ●新会員、竹内 透さん(44期、38歳)です！

「今回から参加させていただきます竹内 透と申します。11年間、進学塾のサラリーマン講師をしておりましたが、現在は自宅のある豊春で社会保険労務士を開業しております。今後ともよろしく願



いいたします。」実にフレッシュで嬉しいことです。

\*

### ●校歌斉唱！

副会長の鳥井 隆一郎さん(11期)から。「校歌の初めのところで“校舎の礎動きなき…”という部分がありますが、これを“揺るぎなき…”と歌ったという人たちがおられ、論争になって



います。皆さんはどう歌ったのでしょうか…？」と、20年～60年近く前のことを思い出すことになりました。その結果、何人かの方々は“揺るぎなき”と…。で

も、本部の小島 正徳事務局長(14期)から「いろいろと調べましたが、“動きなき”でした。」とのことでした。最後に校歌斉唱でめでたく閉じ

